

## 第 1 回 佐渡市立両津病院 移転新築検討委員会 議事録

日 時	平成 28 年 11 月 14 日 (月) 14:00～15:10
会 場	両津病院 2 階講堂
出席者	委員：石塚院長、小田先生、神田参事、鈴木副院長（代理）、中山会長、 半田支部長、藤木副市長、本間支所長 事務局：小路両津病院管理部長、金子課長、三好庶務係長
<p>【議事要旨】</p> <p>○副市長（座長）あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両津病院のあり方、機能や佐渡での役割の検討をお願いしたい。任務は要綱第 2 条。</li> <li>・ 議事録は概要のみ公開、詳細な内容については非公開とする。</li> </ul> <p>○経過説明…小路管理部長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両津病院の移転改築を検討するに至った経緯について</li> <li>・ 佐渡市医療構想の策定について</li> </ul> <p>○両津病院の現状及び検討事項の説明…小路管理部長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療科の現状</li> <li>・ 病院の機能について</li> <li>・ 病床機能と規模について</li> </ul> <p>○質疑応答</p>	
<p>【質疑・提言（抜粋）】</p> <p>○これからの佐渡の介護・医療を支えるためには医療資源の確保が大事。人材確保には良い両院、きれいな病院といったハードを整備することも人材を集める魅力となる。</p> <p>○人材確保には、研修や研究に関して佐渡ならではの魅力がほしい。</p> <p>○開業医の先生方が高齢となり、20 年後 30 年後に今の体制を維持するのは難しい。公立病院がその代替として役割を担ってほしい。</p> <p>○新型インフルエンザ等のパンデミックがおきた場合、佐渡総合病院だけでは対応は難しい。</p> <p>○両津病院の機能別分類の点数に入院基本料を除くとあるが、加算等は全部除いてある点数かどうか？</p>	

⇒機能分類に用いたシステムでは、入院基本料・期間加算・看護体制加算等を除く  
純粋な医療投入点数で算出しています。

- 基幹的な病院に医師を集め、地域の中で役割分担を進める中で、派遣や連携によって地域全体で医療を確保していく取組みが必要。
- 看護師不足はあるが、看護基準を落とすということは経営的に厳しい。看護基準が上位であると看護師にとっても負担は少ないし、やりがいも感じる面があると思われる。
- 基幹的な病院である佐渡病院が、高度急性期と急性期を担わざるを得ないが、回復期も持たざるを得ない状況。役割分担をした上で、両津地区においては、介護や在宅に戻れる方は両津病院が受け持ってもらいたい。
- 島内で回復期も含めた医療を完結できることが求められるが、両津病院では、リハビリ等の専門的なものは人員や設備的に難しい。
- 地域医療構想でいうところの回復期は、リハビリに特化したものではないと思われます。むしろ在宅医療や介護施設へつなぐ医療や、その後の訪問診療も含めた医療が佐渡市には適しているのではないかと。
- 介護施設との連携、在宅との連携に関しては、両津病院を中心としたシステムができあがっている。
- 入院中に介護保険が必要になった場合には、両津病院に常駐するケアマネージャーが認定の相談にのれるため、介護への連携はできている。

**【連絡事項】**

\*次回は 11 月 28 日（月）14:00～ 金井コミュニティセンター2階小会議室で開催

## 第2回 佐渡市立両津病院 移転新築検討委員会 議事録

日 時	平成 28 年 11 月 28 日 (月) 14:30~16:00
会 場	金井コミュニティセンター 2階小会議室
出席者	委 員：石塚院長、小田先生、神田参事、佐藤院長、中山会長、半田支部長、 本間支所長、藤木副市長 事務局：小路両津病院管理部長、金子課長
<p><b>【議事要旨】</b></p> <p>○副市長（座長）あいさつ ・ 前回の議論を踏まえたたたき台を用意した。更なる検討を願いたい。</p> <p>○報告事項…小路管理部長 ・ 前回の議事録の確認（委員からは異論、内容修正等はなし）</p> <p>○両津病院の現状及び検討事項の説明…小路管理部長</p> <p>○質疑応答</p>	
<p><b>【質疑・提言（抜粋）】</b></p> <p>○診療科について、現状維持は妥当なところ。現実的に医師確保の目途がたつかどうかで診療科が決まる。</p> <p>○高齢者が多いので、もの忘れ外来のような診療科は可能か。</p> <p>○認知などの症例は、神経内科や精神科等の専門外来につながることが大切。その玄関口としての役割を果たせればいいのでは。</p> <p>○認知の専門外来への紹介には、脳の病変が無いかを確認してからというのがある。開業医では難しい CT や MRI を備えた病院にして窓口になってほしい。</p> <p>○将来の増える疾患として、脳血管障害、大腿部頸部骨折、心筋梗塞が増えるといわれている。大腿部頸部骨折に対応するためには、整形外科が重要になるが、外来の派遣のみで対応できるのか。</p> <p>○整形外科は、佐渡病院でもパンク状態。需要に対応しきれない。</p> <p>○両津病院では整形外科的な手術は難しいが、圧迫骨折で安静的に診るようなことはできる。そのような患者さんを診ていくことがいだろう。</p> <p>○一般内科という言葉は死後になりつつある。安静的な整形外科も診ることができる総合診療科ということを前面に出すべき。</p>	

- 皮膚科や泌尿器科なども専門的に 1 度診てもらった後、その後の治療を他の病院や開業医で診ていく形が必要。
- 今後回復期をもった病院に向かうことになるだろうが、両津病院が今持っている機能は、単なる回復期の病院以上のことをやっている。救急病院や在宅医療、教育機能、へき地診療。こういったことを今後も続けていくなら、地域医療のセンター的なものを目指していける。これを前面にだすべき。
- 回復期を前面に出しすぎると経営面や医療技術者確保の面で厳しくなるだろう。
- 急性期を診られて、回復期も診る。そして地域の施設や在宅に復帰してもらい、在宅医療を提供できることができればいいと思う。
- 在宅医療は人材確保が難しい。OG ナースの活用というものを考える必要がある。収支的には厳しいが、そういったことをやることで両津病院の価値が上がるのでは。
- 医療介護の体制作りは個別の病院で解決できることではない。佐渡全体の連携で両津に必要な機能というところが必要。
- 介護施設の後方支援を担うという表現は、連携としたほうが良い。
- 在宅医療を支えるには訪問看護が必要だが、経営的にも人材的にも難しい。医師の指示もいるので地域の病院が診るしかない。
- 医療人材の確保は、公立・厚生連・病院別という事ではなく、佐渡の看板で募集できるといい。
- 少ない医療資源で医療を提供するためには、地域ごとに一次救急を含めた一次医療と回復期を担当するところが必要。佐渡病院は 2 次医療の他に国仲の一次医療を担当することで補っていくしかない。
- 地域包括ケア病棟は、病棟全部をする必要は無い。患者さんの割合に応じてベッド数を決めればいい。残りの部分で急性期を診ることで、今受け入れている急性期の患者さんも診ることができる。
- 地域包括ケア病棟を入れることで、佐渡病院で急性期を過ぎた患者さんが回復期を過ごす流れができる。この全体のシステムは、佐渡全体の流れとして取り入れていかねばならない。
- 回復期を前面に出しすぎて、急性期を扱えないような形にしてはいけない。回復期という呼び名を市民が理解してもらえるのか。
- 急性期の病院として県から開設許可ができるのか。

**【連絡事項】**

\*次回は 12 月 26 日（月）13:30～ 金井コミュニティセンター 2 階小会議室で開催

## 第3回 佐渡市立両津病院 移転新築検討委員会 議事録

日 時	平成 28 年 12 月 26 日 (月) 13:30~15:00
会 場	金井コミュニティセンター 2階小会議室
出席者	委 員：石塚院長、小田先生、神田参事、佐藤院長、中山会長、半田支部長、 本間支所長、藤木副市長 事務局：小路両津病院管理部長、金子課長
<p><b>【議事要旨】</b></p> <p>○副市長（座長）あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の議論を踏まえたたたき台を用意した。更なる検討を願いたい。</li> </ul> <p>○佐藤院長から資料説明</p> <p>○報告事項…小路管理部長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の議事録の確認（委員からは異論、内容修正等はなし）</li> </ul> <p>○両津病院の現状及び検討事項の説明…小路管理部長</p> <p>○質疑応答</p>	
<p><b>【質疑・提言（抜粋）】</b></p> <p>○医療介護は佐渡全体で体制を整備しなければならない。</p> <p>「治療主体型」（※従来の医療：治療後に社会復帰）と「生活支援型」（※治療の前後で社会復帰困難者への医療）の診療パターンに分けられる。超高齢化社会では、「生活支援型」の診療が増えてくる。「生活支援型」は、より多くの医療資源を必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みずほを除く 5つの病院が 1次医療を担当する。佐渡病院は加えて 2次医療も担当。</li> <li>・ 佐渡全体の空きベッドを効率的に運用する連携センターのような機能を持つ部門が必要。</li> <li>・ 高齢化社会では、「地域包括ケア病床」が中心となってくる。</li> <li>・ 生活支援のためのコメディカル（リハビリ・訪問介護・ケースワーカー等）が協同する体制を作ることが必要。</li> <li>・ 病・病や病・介での職員の流動化があれば良い。その為には業務の標準化が必要。</li> <li>・ 院内外を問わず、入院・転棟・退院・介護を他職種が関与してコントロールできる体制が必要。</li> </ul> <p>このような体制がとれば、島外にアピールできる。地域医療介護の教育研修地域として</p>	

人材確保も期待できる。

- 夕方7～8時まで診療する「夕暮れ外来」などの特色ある取組みが加えられないか。
- 小児科は放課後受診が多いので、実際に6～7時まで診療することが多いが、医師個人の頑張りとコメディカルの時間外労働で支えられている。
- 整形外科の需要を満たせていないが、医師確保や収益性を考えると佐渡病院の整形外科医増を望みたいが、それも難しい。
- 地域医療の寄附講座等を病院に設置して教育機能を持たせることは可能だが、県は既に魚沼基幹病院で教育機能を持たせたので難しい。
- あるべき診療科と機能について、順序を逆にしたほうが分かりやすい。
- 単なる病院機能以上のものを地域に提供している。これを佐渡全体の視点でとらえて地域医療の模範として発信してほしい。
- 両津病院の特色を前面に出すべき。巡回診療と介護施設との連携、訪問看護は特色になる。
- 健康管理機関としての将来性も特色を持たせたい。
- 巡回診療と合わせて生活指導や保険事業、訪問診療をできればいいが、人材も必要になってくる。
- 市民にとっては当たり前のことかもしれないが、他の地域と比べると非常に特殊なサービスを受けているということをアピールすべき。
- 高齢者はどこが悪いのか分からない人が多い。そのような人を専門診療科につなぐのが総合診療科の役割。大変な役割だが。
- 高齢者の救急需要は増えてくる。そこに対応することが大切。
- 病床数は60床の想定だが、おそらくは、もう少し少ない数で足りるだろう。根拠の数字を持っていたほうが良い。

#### 【連絡事項】

\*次回は2月13日(月)13:30～ 金井コミュニティセンター2階小会議室で開催

## 第4回 佐渡市立両津病院 移転新築検討委員会 議事録

日 時	平成 29 年 2 月 13 日 (月) 13:30~15:00
会 場	金井コミュニティセンター 2階小会議室
出席者	委 員：石塚院長、小田先生、神田参事、佐藤院長、半田支部長、 本間支所長、藤木副市長 事務局：小路管理部長、金子課長
欠席者	委 員：中山会長
<p><b>【議事要旨】</b></p> <p>○副市長（座長）あいさつ ・これまで議論を重ねて、構想案も最終段階となった。完成に向けてご検討願いたい。</p> <p>○報告事項…小路管理部長 ・前回の議事録の確認（委員からは異論、内容修正等はなし）</p> <p>○両津病院の現状及び検討事項の説明…小路管理部長</p> <p>○質疑応答</p>	
<p><b>【質疑・提言（抜粋）】</b></p> <p>○高額医療機器の導入は建替えの際に考えざるをえないが、需要予想をしないと導入コストを回収できない。佐渡全体で考えることも必要。</p> <p>○リハビリ強化の方向があるが、地域包括ケア病床の設置がリハビリの強化と同意か。そのあたりの説明が必要。</p> <p>○在宅復帰といわれるが、高齢者は退院しても支障なく社会生活をおくれるという方は少ない。在宅の医療提供でも不足ない状態に戻すことも在宅復帰になるのでは。</p> <p>○身体機能のリハビリ、生活動作のリハビリ、社会復帰のリハビリがあるが、在宅復帰に向けたリハビリは重要。</p> <p>○介護との連携では、両津病院と同じ敷地内に特養と老健があるが、隣接するメリットはあるか。</p> <p>○介護側で医療が必要か判断できないので、医療機関で受診するために移動しなければならないが、両津病院の場合は医師が出向いている。</p> <p>○3施設が隣接しているというのは、両津が全国の先駆け。</p> <p>○地域医療構想の方向は、病床を少なくして在宅医療へシフトする流れになる。施設も在宅の範囲に入るので、在宅で安心した医療を受けられることは安心して過ごす環境ができることになる。</p> <p>○特養の入所者の平均年齢も年々上昇していることで、病気になりやすい集団となっている。</p>	

病院から医師が出向いて検査もレントゲンも施設でできる環境となっている。重症化する前に治療に移行できるメリットはある。

○看護師確保は困難だが、あきらめずに確保対策を行ってほしい。

○地域包括ケア病床の病床数は、リハビリがネックになる。的確な需要把握を。

**【連絡事項】**

\*修正案を委員へ事前送付し、次回までに確認をしてもらう。

\*次回は2月27日(月) 13:30～ 金井コミュニティセンター2階小会議室で開催



## 第5回 佐渡市立両津病院 移転新築検討委員会 議事録

日 時	平成 29 年 2 月 27 日 (月) 13:30~14:15
会 場	金井コミュニティセンター 2階小会議室
出席者	委 員：石塚院長、小田先生、神田参事、佐藤院長、中山会長、半田支部長、 藤木副市長 事務局：小路管理部長、金子課長
欠席者	委 員：本間支所長
<p><b>【議事要旨】</b></p> <p>○副市長（座長）あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5回の検討会で議論を重ねて構想案が出来上がった。今日、ご確認いただいて最終形としたい。</li> </ul> <p>○報告事項…小路管理部長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の議事録の確認（委員からは異論、内容修正等はなし）</li> </ul> <p>○前回からの構想案の修正点の説明…小路管理部長</p> <p>○委員による構想案の最終確認作業</p>	
<p><b>【質疑・提言（抜粋）】</b></p> <p>○構想案の最終確認作業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字、脱字の修正。</li> <li>・表現の統一。（地区、地域、ですます調等）</li> <li>・「日本一地域に愛される病院を目指して」の項目は、全体の統一感、前後との関係性から、別立てとするか、表現を改める等の改善策を講じること。</li> </ul> <p>○一部の字句修正等の指示があったが、構想案について、概ね委員の了承をいただいた。</p> <p>○修正後の構想案は、委員に送付することとする。</p>	
<p><b>【座長あいさつ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構想案は最終的に整理して三浦市長へ報告を行ない、具体的にどのような形のものを造るのか、来年度以降検討に入りたい。</li> <li>・5回にわたって集中的に、細部にわたり審議いただき、今回構想案が出来上がったことに感謝したい。今後も引き続き、ご指導願いたい。</li> </ul>	